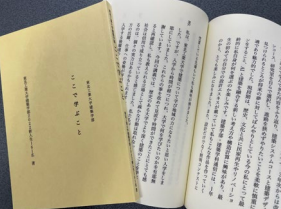


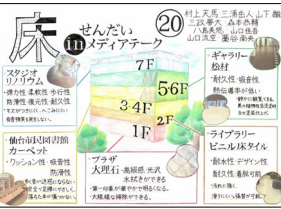


Pick Up News ゴールデンウィークも終わり、再スタート。1年生は、入学直後の緊張感からも解放され、大学の生活にも慣れてきた頃ではないでしょうか。自身でペースをつかみ、有限の時間を思う存分楽しみ、活かしてください。大学生活・学修面で気になることがあれば、友人に聞くなり、担任の先生や教学アドバイザーの先生に聞くなりして、その都度解決していきましょう。本学には、充実したカウンセリングの体制もあります。心身ともに不安を感じたら、保健室やカウンセリングルームで相談して下さい。また、大学には各種ハラスメントに対応する窓口も設けています。気になることがあったら相談して下さい。さて、社会はポストコロナに向けて、動き出しています。これまでできなかったこと・中断していたことに少しずつ向き合える状況もあります。感染予防には十分気を配りながら活動して下さい。4年生は就職活動の最中かと思えます。社会は広く、特に建築を学んだ人が活躍できる場は様々に広がっています。自分の可能性を狭めることなくチャレンジして下さい。



入学直後のオリエンテーションの中で、石井から「本学の建築学部で学ぶ意義」を伝えました。それを受けて、新入生全員が本学部で学ぶことの意味や意義、また自身の決意等を文章にまとめてメールで回答してくれました。その内容を、冊子にまとめ、製本し、「ここでまなぶこと」として全員に配付いたしました。同じような思いや目標を持って学ぶ仲間がいることを感じてもらいたいです。また1年後、数年後、10年後に振り返って自分の成長を感じ、また目標に向かって歩んでいるのかを再確認するものとして活用してもらえたらうれしいです。引き続き、学生一人ひとりの思いを「形」にすることを、建築学部では心がけて参ります。

建築学科の同窓会(尚建会)は、新たな取り組みとして「建築を学び始めるあなたに贈る1冊の本プロジェクト」を企画。これは、卒業生から新入生全員にそれぞれメッセージを付した書籍を贈呈するものです。卒業生が在学中に読んで感銘を受け、新入生には是非とも読んでほしいと推薦された本です。5/17に贈呈式が執り行われ、受け取った学生たちは、この本を知識や視野を広げていきっかけにしたいと喜んでいました。



1年生は4/12に「計画、歴史、環境、構造、材料」のテーマ毎、20組のチームに分かれてまち歩きワークショップを行いました。そして調査内容をまとめた各班のプレゼンテーションを行い5/16には表彰式が行われました。最優秀賞は「sen dai」メディアテークの床材に着目した独自の視点が評価されました。



東北工業大学八木山キャンパス実験・教育棟新築工事 施工一清水・仙徳・阿部和J

現場を“生の教材”に活用

建設現場は、建築教育にとって最も貴重な教材の一つです。東北工業大学八木山キャンパスの実験・教育棟新築工事では、現場をそのまま教材として活用し、学生が現場で学ぶ機会を創出しています。

げんば 最前線

現場をそのまま教材として活用し、学生が現場で学ぶ機会を創出しています。

教員・学生が愛着持つ施設を

現場をそのまま教材として活用し、学生が現場で学ぶ機会を創出しています。

2022年05月06日 006画 01版 No.12 建設通信新聞



4年生の設計の講義(建築設計デザインⅢ)は、今年度着任した錦織先生、齋藤先生と、学外で活躍している建築家・非常勤の先生を含め、「TOHOKU STUDIO」(5組の建築家設計スタジオ(選択制))としました！

先日、錦織・石井スタジオでは「荒井まちの図書館」の見学と、そのまま場所をお借りしての出張エスキスをを行いました。

錦織・石井スタジオ、齋藤隆太郎・新井スタジオ、齋藤達哉・中村スタジオ、渋谷学彦・不破スタジオ、蟻塚学・福屋スタジオ

Pick Up Lab. 鍵屋研究室は昨年8月に設立された研究室です。鍵屋教授は、茨城県つくば市にある国土交通省の研究所で建物の火災安全や都市の環境計画に関する研究に携わってきました。鍵屋研究室のテーマは、「安心で豊かな生活を環境と防災の両面から創造する」です。建築やまちづくりの立場から、夢を自由な発想と技術的な可能性で裏付けて、日常の生活を安心で豊かなものにする方法を「かたち」にして、社会に向けて提案していきます。今年度は、スマホやデジタルサイネージを使った避難誘導方法、地下空間の災害時利用、新しい自動車技術と建築・都市との関係、建物内外のロボットの移動方法などのテーマに取り組んでいます。



研究室風景 (撮影用にマスクを外しています)



自動運転ロボットの建物内外の移動方法の研究



3年 佐藤 恵太郎 くん 泉高校 出身

Pick Up Student 私AI化が進む世界で無くならない職業とは何でしょうか。一昔前では安泰と言われていた職業も今ではかなり衰退しています。建築の現場ではロボットの導入が検討されています。グローバル化がさらに進めば、世界中の人々との競争に勝たなくては職を得られないかもしれません。安定した職業などなく、何をするかよりも誰がするかが重要になります。そこで求められる人材とは自発的に動ける人であると私は考えます。講義を受け、広く深く学ぶことは興味や考えを広げることに繋がりました。将来は施工管理の仕事をしたいと考えています。施工だけでなく、設計・環境・積算など幅広い知識を身につけ、社会に貢献できる人材となれるようこれからも精進して参ります。



1年 八島 美悠 さん 白石工業高校 出身

Pick Up Student 大学生活は、始め不安でいっぱいでした。しかし、ワークショップや日々の生活を通して友人も出来、学習面や生活面でのサポートがとても充実しているため、大学生活やオンライン講義などにも徐々に慣れてきました。大学に入学して約1か月が経過し感じたことは、1日のスケジュールをしっかり把握し、講義を受講し、課題を期限までに提出するなど、高校に比べて自分で学びたいことを選択出来るからこそ自分でスケジュール等を管理する事が大切だと感じました。これからの4年間の大学生活で様々な経験をしていく中で自己管理はとても重要な事だと思います。充実した大学生活を過ごせるように頑張っていきたいです。